

北アルプス 高瀬川東沢～燕岳（槍ヶ岳北鎌尾根の転進）

（報告） F 島

◎山行日：2022年8月20～22日

◎メンバー：K藤（L）、F澤J、F島

高瀬ダムを起点に湯俣を経て天上沢を遡行するクラシックルートから槍ヶ岳北鎌尾根を登る計画を立てた。天候不良で延期にする事2回。3回目は行けると思いきや直前で1日目～2日目の天気予報が悪化してしまい今回はどうするか。中止覚悟でモヤモヤした気分を振り払い現地に行き判断することにした。中止なら湯俣温泉晴嵐荘で温泉入って、信濃大町で観光と気楽に考えていた。

信濃大町駅からタクシーを使い高瀬ダムまで行き、まずは湯俣を目指す。天気は曇りでいつ雨が降ってもおかしくない雰囲気だ。湯俣に着き、そこから千天出合いを左に天上沢を遡行し始めた。だが、いきなり渡渉が必要な状況で渡ってみるものの、水量が多く腰まで浸かってしまう。おまけに雨も降ってきた。下名が2回目の渡渉後、向こう岸にいるK藤さんからNGのサインが出て、引き返すことに。渡渉2回の訓練??



湯俣

で終了となった。この先を考えると妥当な判断だったと思う。今日は雨予報、F澤さんと下名は初のツェルト泊で無理はできない。中止のリスクを承知でここまで来たので仕方ないと諦めがついた。



雨宿りで寄った晴嵐荘でK藤さんを中心に緊急ミーティングをした結果、今晚は湯俣まで来る間に立ち寄った避難小屋で宿泊することにした。さて、明日以降はどうするか？天気予報では回復傾向のようだ。餓鬼岳～燕岳の間の稜線が上がってどちらかのピークを踏んで下山する案と、一旦仕切り直して後立山方面に行く案が出ていた。もし稜線に上がるにしても現代の地図には登山道などないが、K藤さん持参の昭和45年地図には、稜線に上がるルートが2本描かれている。だが、果たして行けるのだろうか。小屋の主人にも聞いてみたが、明確なルートではなさそうな感じだ。この先を案じながら雨の中、避難小屋を目指した。

避難小屋到着後、窓を開け放ち、備え付けの銀マットを引きつめると思いのほか快適である。雨を気にすることも無く、我々3人だけでゆったりと時間を過ごすことができた。小屋の名前は「名無避難小屋」のため、勝手に名前を付けたい位に有り難かった。

2日目朝は晩まで降っていた雨が止んだ。やはり天気は回復傾向のようだ。高瀬ダム方面に向かい、目的のルートを探す。稜線に上がるルートの候補1本目（「無名沢」という沢の名前）は微妙・・・、候補2本目の発電所の近くの東沢なら行けそうだと判断した。餓鬼岳と燕岳の間の東沢乗越に登るルートである。地図を見る限り登山道というより沢登りにはなるのだろうけど…不安なのは、事前情報ほぼなし、沢靴なし、遡行図なし。巻き道もない大滝が出てきたら撤退である。様子を見ながら行けるところまで行く方針とした。

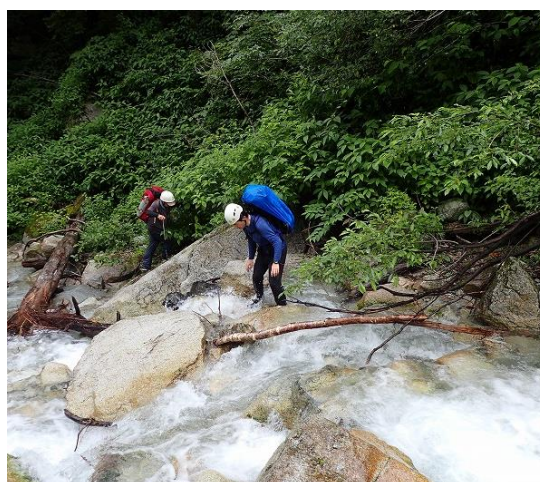
途中の取水所から、本格的なバリエーションルートとなった。沢靴ではないので、靴を



晴嵐荘



名無避難小屋



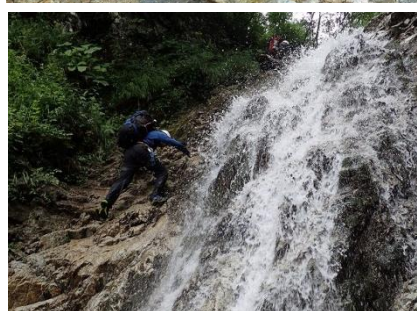
東沢遡行

水に浸からずに済ませたく両脇のブッシュを通るが、徐々に勾配が強くなり、ブッシュも無くなって普通の沢登りの如く足を水に入れて遡行し出す。下名はトレラン用のアプローチシューズだったせいか、スリップして膝を打ってしまった。途中1箇所、滝でロープを出した。登攀が厳しい滝は高巻きして凌いだ。また全体的に倒木等で荒れていて歩きにくい。

水が枯れだし、岩質が白く脆くなった。沢の詰めとなる。登りやすい地形を辿っていくとどうも東沢乗越より燕岳側に逸れてしまう。脆い岩場を登り、勾配が急な樹林帯に突入。ここからの藪漕ぎがきつかった。まれに踏み跡らしきものがあり、登りやすい箇所を登ると、やはり東沢乗越から燕岳側に逸れているので、いつまでも登山道には合流できず四苦八苦する。方角に気を配り、長く藪と格闘した。ここまで長く陰しい藪漕ぎは流石に堪えるし、下名が先頭の為、責任重大

だ。もう稜線は見えるのになかなか着かない。もどかしい思いで、藪を漕ぎ続けると、ふと歩きやすい道に入った。「登山道に合流しましたー！！」とメンバーに伝える。やはり東沢乗越から燕岳側に登った所のようだ。広いスペースまで上がって大休憩。核心を突破し安堵感に浸る。思い返せば沢の難易度は、それ程高くはないが、先が読めない不安感というのが常にあった。とりあえずホッとした。

ここから燕岳を目指すことにし、東沢登山道を辿る。



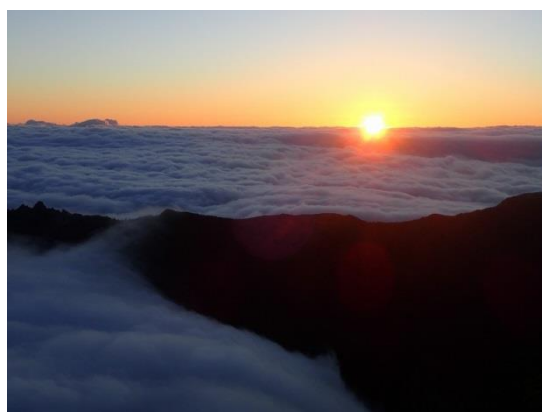
大休憩



東沢登山道

木々の葉やハイマツが登山道を隠してしまうほど生茂っている箇所が所々あり、登山者が少ないルートなのだろう。結局、この日は名無避難小屋から他の登山者とは誰にも会わなかった！とは言え、ここは一般登山道であるため、先が読める道というのは、精神的に楽だ。

燕山荘でツェルト泊の予定であったが、途中見晴らしの良い広い平地があり、ここで夜を明かすことにした（誰もいないし、名目上はビバークということで・・・）。F澤さんと下名はK藤さんよりストックを使ったツェルト設営についてアドバイスしてもらい無事設営できた。夕方、雨がパラついたが、夜には雲がなくなり満点の星が見えた。数年ぶりに見る天の川銀河。明日はきっと晴れるだろう。



翌日、朝焼けと朝日を拝み期待通りの大快晴。稜線に上がると北アルプスの雄大な景色が見えた。槍ヶ岳北鎌尾根もはっきり見える。尾根の詳細の写真を撮って次の機会に備えた。暫くは快適な稜線散歩。北燕岳から登山者が急に増えてきて、日が当たる箇所ではジリジリと暑い。これぞ真夏の北アルプス。最終日晴れて良かった。



燕岳を經由し、燕山荘に到着。多くの登山者で賑わっている。その後、合戦尾根をひたすら下り、登山口からすぐの中房温泉に入って帰路についた。

本来の北鎌尾根踏破の目的は達成できなかったが、パーティーで状況に応じた転進先を話し合っ3日間を有意義な山行にできたのは、いい経験になったと感じています。それも思いもよらないルートを行ったのでちょっとした冒険をしたような感覚でした。K藤さん、F澤さんには様々な面で助けられて、お世話になりました。昭和45年地図がキーアイテムだったなど。北鎌尾根は別途、機を見計らって登りたいと思っています。

<了>



<参考コースタイム>

◆8月20日

- 5:30 信濃大町発 (タクシー)
- 5:45 大町温泉郷着 (合流)
- 6:20 高瀬ダム着
- 7:19 登山道入口
- 7:50 名無避難小屋
- 9:15 湯俣
- 10:30 湯俣温泉晴嵐荘
- 12:18 名無避難小屋

◆8月21日

- 5:00 起床
- 6:00 出発
- 7:00 一本
- 8:00 一本 (東沢林道の橋)
- 12:07 一本 (昼食)
- 12:57 一本 (GPS 2170m)
- 14:51 稜線 (F島)
- 15:00 稜線 (K藤)
- 16:00 ビバーク地

◆8月22日

- 5:00 起床
- 7:20 ビバーク地発
- 8:40 燕岳
- 9:25 燕山荘
- 9:50 燕山荘発
- 10:20 合戦小屋
- 11:20 一本
- 11:55 中房温泉
- 14:15 中房温泉発 (バス)
- 15:10 穂高駅
- 16:08 穂高駅発 (特急あずさ)



21日のルート《現代の地図》